

いわき市中小企業・小規模企業振興協議会 幹事会 議事録

1 会議概要

(1) 開催日時 令和元年 6月 25 日(火) 16:20~17:10

(2) 開催場所 いわき産業創造館 会議室1

(3) 出席者(順不同・敬称略)

○ いわき市中小企業・小規模企業振興会議委員(9名中 11名出席) (順不同、敬称略)

区分	所属等	職氏名等		出欠
中小企業・小規模企業	福島県中小企業家同友会いわき地区	副会長	丹野 勇雄	出席
	いわき経済同友会	幹事	佐久間 一枝	(欠席)
大企業	いわき商工会議所	市内大手企業復旧・復興懇談会		出席
		事業理事・中小企業振興部長 (兼)中小企業相談所長		
中小企業団体等	いわき地区商工会広域連絡協議会	主任主査	川島 秀一	出席
	いわき産学官ネットワーク協会	インキュベーションマネージャー	奥瀬 円	出席
	支援関連等専門家	NPO 法人 TATAKIAGE JAPAN 理事長	小野寺 孝晃	出席
		税理士	木幡 仁一	(欠席)
		マーケティングアドバイザー	橘 あすか	出席
金融機関	ひまわり信用金庫	常務理事兼地域支援部長	坂本 新輔	(欠席) ※代理出席
	いわき信用組合	常勤理事兼業務企画部長	本多 洋八	出席
関係行政機関	いわき市	産業振興部長	石曾根 智昭	出席

○ オブザーバー(3名)

所属等	氏名等	
(株)日本政策金融公庫	いわき支店長	奥田 智則
福島県中小企業家同友会	いわき事務所長	阿部 雄飛
いわき産学官ネットワーク協会	事務局次長	荒木 学

○ 事務局(6名)

所属等	氏名等	
産業振興部	次長兼総合調整担当	渡邊 伸一郎
産業創出課	主幹兼課長補佐	富田 稔
	主査	吉田 真章
	主査	戸部 洋一
商業労政課	課長	佐藤 浩伯
工業・港湾振興課	課長	鈴木 浩貴

(4) 次第

① 開会

② 協議事項

(1)平成 29 年度事業の成果報告書について

(2)平成 30 年度事業の中間報告について

(3)令和元年度事業の公募について

③ その他

④ 閉会

2 内容等

事務局より、平成 29 年度事業の成果報告書発行に関する報告及び令和元年度事業の公募内容(案)について説明を行い、その後、平成 30 年度事業の中間報告について各推薦機関より報告(※いわき商工会議所(5 社)、いわき地区商工会広域連絡協議会(1 社)、いわき信用組合(1 社)、ひまわり信用金庫(1 社)の順で進捗状況を報告)をした。

続いて、各委員間での意見交換を実施した。

意見交換の結果、

- ・ 平成 30 年度事業については、8 月末の事業期間終了まで、引き続き、必要に応じて情報共有した上で各機関が連携した支援を行うこととし、
- ・ また、令和元年度の公募内容に関しては事務局(案)のとおり進めるといった内容で委員の意見集約が図られた。

なお、委員間での意見交換の概要は次のとおり。

A 委員

- ・3 年目となり、今年度は福島県企業家同友会としても、広く会員に周知を図りたいと考えている。
- ・推薦団体として、同友会が対応することも可能なのか確認したい。(事務局において整理し、後日連絡することとした。)
- ・公募内容に関しては特に異議はない。

B 委員

- ・採択された事業所は本当に成長していると実感している。

C 委員

- ・本市は色々な支援メニューが充実していると感じている。
- ・こういった支援メニューが増えると、浜魂での事業化も実現しやすくなるので、周囲の方々にも積極的に案内していきたい。
- ・周囲で本補助金の不採択になった方がいたが、どんな理由で落選したのかや、どのようにすれば良くなるのか といったフィードバックがあるとより良い事業となると感じている。

D 委員代理

- ・成果報告書等を見ても伝わるが、本当に採択者の成長を感じられる。
- ・今後もこういった事業所の支援に努めていきたい。

E 委員

- ・3 年目となり、今後の継続性といった観点からも、今年は重要な年となる。
- ・本事業を通して、各機関が連携した取組みに繋がっており、こういった情報共有の場の重要性を実感している。

F 委員

- ・あらためて中間報告を伺うと、SNSやホームページによる広報活動が多く見られるが、同業種や類似業態に取組みを波及させていくことが目的であり、私達支援機関がもう少し踏み込んで支援して必要性があると感じた。
- ・採択された事業所は、様々な気づきや連携が生まれたことにより、本当に成長している。
- ・本事業により、こういった環境を構築できたことは大変意義があると実感している。

G 委員

- ・取組内容が充実してきていると実感している。
- ・行政としても、飲食関係の業種等に関してはもう少し支援できるのではないかと考えている。
- ・扱っている商品のファンを増やしていくことが重要。
- ・この中間報告の場も、可能であれば実際の事業所様に集まつていただくことで、横の繋がりが生まれ、今後の連携にも繋がる可能性がある。
- ・私達もそういった場を設けることにより、支援に関する気づきがあるかもしれない。
- ・今後は、こういった顔の見える場の構築にも取り組んでいきたい。